LSI デザインコンテスト 進捗報告

—画像を VAE で圧縮したい—

222C1021 今村優希

2025年1月28日

1 進捗概要

2 前回の振り返り

前回は道路の画像を実際に VAE に通してみて,出力結果がどの様になるかの実験を行った.

3 今回の実施内容

使用したプログラムは前回でまとめたプログラムである.

- 今まで作成したプログラムを一つにまとめたもの
 - VAE の学習のみを行うプログラム
 - VAE の学習済みの値を利用するプログラム

また、システム構造の概略を作成した.

4 実験と考察

4.1 実験1

4.1.1 内容

「道路のみを学中させる VAE」で作成したプログラムを活用して実験を行う. 学習させる画像を図 4-1 に示す. テストさせる画像を以下の図と図に設定する. 今回は, プログラム内部でグレースケール化をしてくれるので, カラー画像を挿入する.

条件:Layer2 = 16, epoch = 80,000, eta = 0.0005

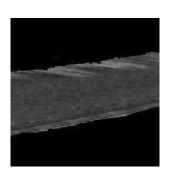


図 4-1: 学習させた画像

4.1.2 結果

VAEで学習し、教師データと同じ図 4-1 をテストデータとして VAE に通過させた。VAE からの出力画像と学習率の推移を図 4-3 に示す.この画像における PSNRは 31.146[dB]と、許容範囲内であった.また、学習率及び、ブロックごとの PSNR のを測定したものを図に示す.ブロックごとの PSNR に関して、黒い部分は PSNR=50 として図に示している.



(a) 学習率の推移



(b) ブロックごとの PSNR 黄色に近い色が PSNR が高 い

図 4-2: 入力したブロック画像の出力結果

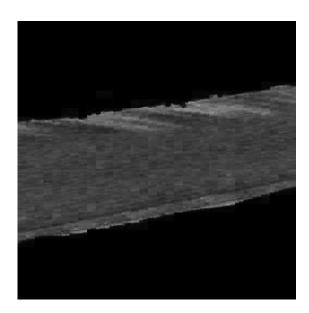


図 4-3: テストデータの出力結果

4.1.3 考察

道路中央部分は PSNR が高いが, 道路の端の部分 (道路ではない部分の近く) に関しては PSNR が低下している. そもそも,端っこに対応するブロック数が少なく, VAE が過学習をしてしまったせいであると考察できる.

4.2 実験 2

4.2.1 内容

前回の考察より、4 隅に黒い部分がないブロックに 関してだけ学習を行い、VAE に適切な学習を行うよう VAE の学習アルゴリズムを変更した。今回の内容では、 今まで作成したプログラムを一つにまとめたプログラム を作成し、それを用いて実験を行った。学習させる画像

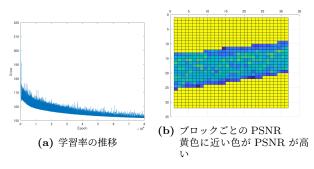


図 4-4: 入力したブロック画像の出力結果

は実験1と同じものであるが、テストデータとしては様々な画像で試してみた.

条件:Layer2 = 32, epoch = 10,000, eta = 0.0001 4.2.2 **結果**

テストデータ毎に, 入力, 出力, ブロックごとの PSNR を出力させたものを示す.

■結果 1 入力画像として図 4-5a, 出力画像が図 4-5b である. また, PSNR は図 4-6 である.



(a) 入力画像

(b) 出力画像

図 4-5: VAE の入出力結果

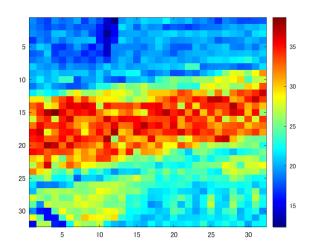


図 **4-6**: ブロックごとの PSNR

■結果 2 入力画像として図 4-5a, 出力画像が図 4-5b である. また, PSNR は図 4-6 である.

4.2.3 考察

これらの結果から、道路の部分は評価の高い PSNR を 出すことができている。また、道路以外の部分に関して は PSNR が悪いためそれ用のアルゴリズムの考案が必 要であると考えられる。結果 2 より異常検知もうまくで





(a) 入力画像

(b) 出力画像

図 4-7: VAE の入出力結果

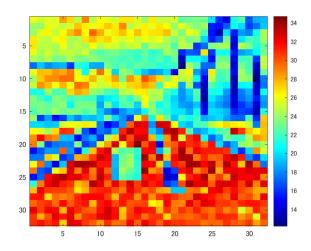


図 4-8: ブロックごとの PSNR

きているようなので,これからのシステム開発に応用で きそうであると思う.

5 課題

- 課題 1
 低 PSNR のブロックに対しての動作
 現在は、元の画像を持ってくるという対応を考えている。
- 課題 2 画像に応じて VAE が再学習するようなアルゴリズ ム考案
- 課題 3 ハードウェアの設計準備

6 今後の計画

画像処理のシミュレーションはある程度できたので、ハードウェアの設計に取り組もうと考えている. それと並行で、以上部分 (PSNR の値が低い部分) の処理のシミュレーションも行おうと思っている. また、課題3の実現可能性についても実験していきたいと思っている.

- 1 ハードウェアの設計
- 2 アルゴリズム考案
- 3 課題3の実現可能性の検討

